

4 - 11 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動 (1977年7月～1977年12月)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan (July, 1977-December, 1977)

京都大学防災研究所

鳥取微小地震観測所・北陸微小地震観測所

京都大学理学部・阿武山地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory and
Hokuriku Microearthquake Observatory,
Disaster Prevention Research Institute;
Abuyama Seismological Observatory,
Faculty of Science; Kyoto University

前報¹⁾に引続き、中国東部・近畿北部・北陸地域の1977年7月～12月の半年間の地震活動を
示す。図の表示方法その他については、本連絡会報、第18巻の第1報²⁾を参照されたい。

今回発表する1977年の後半の6ヵ月間の地震活動については、いくつかの特徴がある。

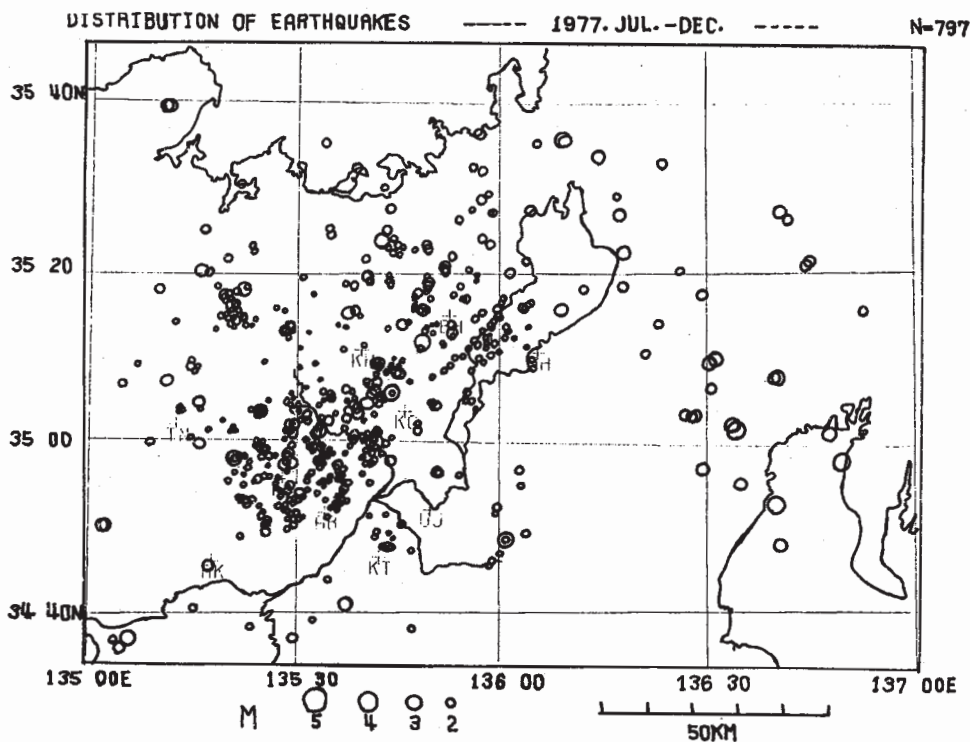
1. 近畿北部において、山崎断層に沿う活動が特に顕著であった。このうち、 $134^{\circ}38'E$, 35°
N付近の地震の塊は、前号に報告した安富観測室付近の地震(M4前後)であり、種々の前
兆現象を示したものであった。また山崎断層の活動と共に、それと共役の方向の活動もやや
活発である。
2. 日本海中における活動が見られた。特に、福井地震断層は日本海中に延び、大聖寺沖地震
(1952, M6.8)の震央($36.5^{\circ}N$, $136.2^{\circ}E$)までに直線的な地震の並びが観測されてきた。
しかし、1977年7～8月にそれが更に北西方向に延びたが、これは北陸における微小地震
観測開始(1976年5月)始めてのことであった。第2図において、 $36^{\circ}40'N$, $136^{\circ}E$ の点
の北西にある地震群がそれである。この活動は1978年1月に更に北西に延びた。

また昨年以來、山陰沖でも地震発生があり、山陰から北陸にかけての日本海沿岸部の地震
活動が、やや沖合に拡がったように見える。これについての詳細は現在調査中である。

参 考 文 献

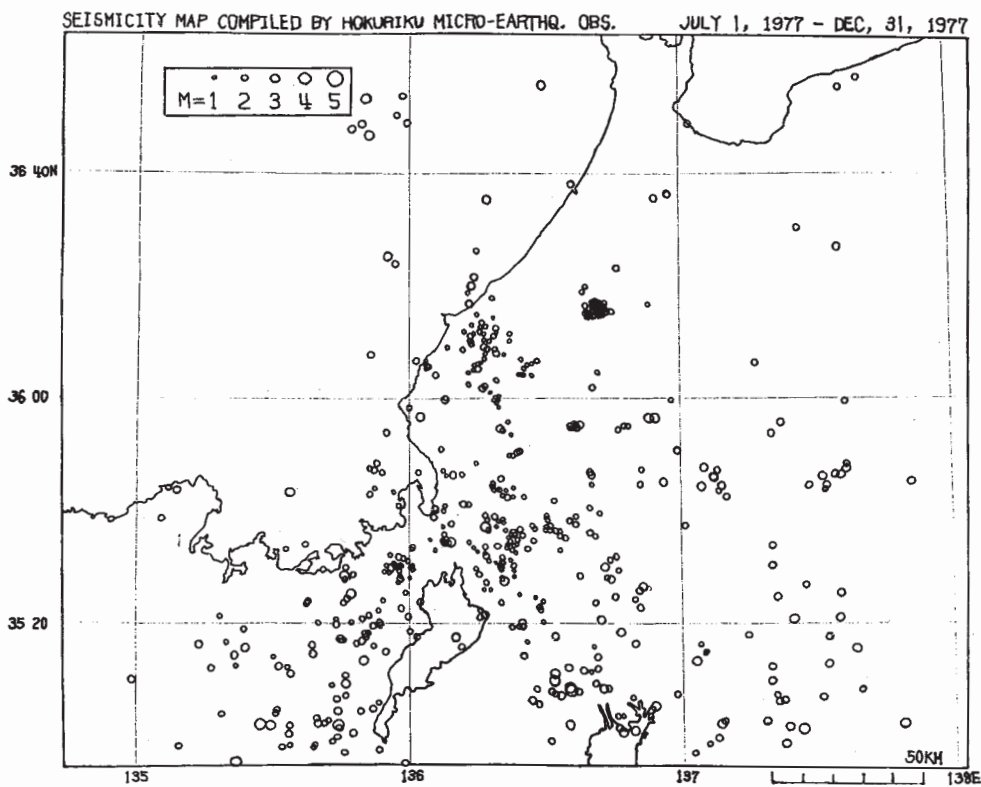
- 1) 京都大学防災研究所鳥取微小地震観測所・北陸微小地震観測所、理学部阿武山地震観測所
：中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動(1977年1月～1977年6月)、連
絡会報、**19**、(1978)、120 - 121。
- 2) 同上：同上(1976年7月～1976年12月)、連絡会報、**18**、(1977)、104 - 106。

- 3) 山崎断層研究グループ：1977年9月30日の山崎断層の地震（ $M=4$ ）に伴った諸種の異常変化について，連絡会報，19，（1978），122 - 128。



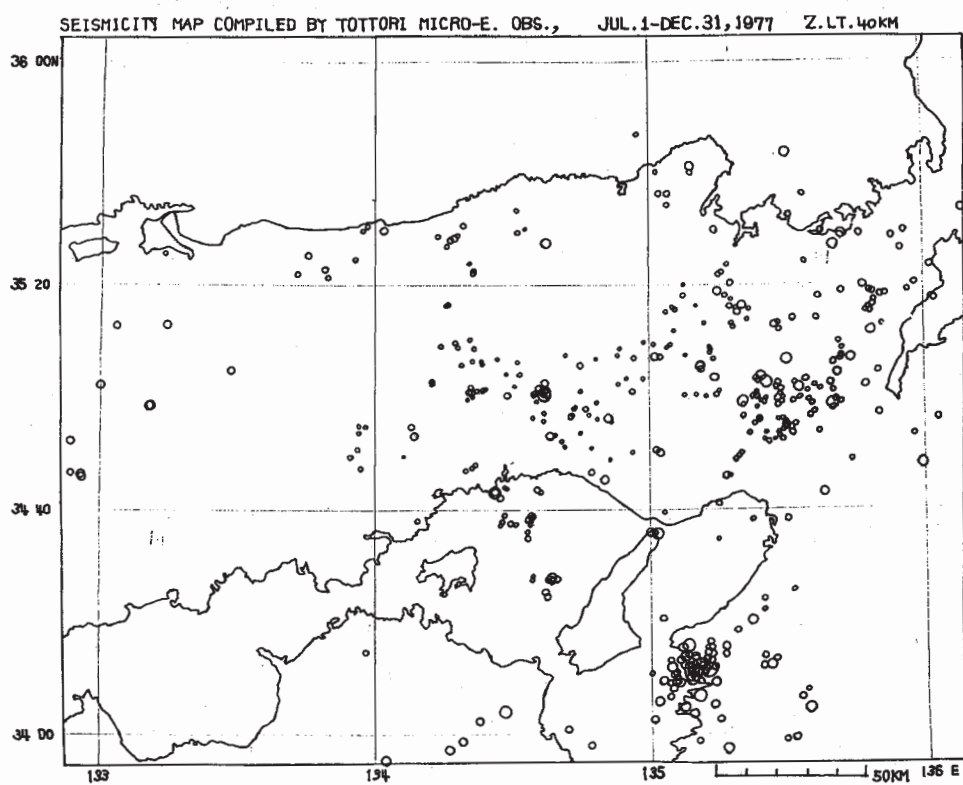
第1図 阿武山地震観測所による震央分布図

Fig. 1 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory.



第2図 北陸微小地震観測所による震央分布図

Fig. 2 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory.



第3図 鳥取微小地震観測所による震央分布図

Fig. 3 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory.